特集

神経因性膀胱の診断・治療，そしてケア

患者さんの悩みに対峙する

企画にあたって

神経因性膀胱は，さまざまな神経疾患や脊髄損傷，先天性疾患などによって引き起こされる排尿機能障害であり，その病態は多岐にわたります．患者さんの多くは，尿失禁や排尿困難，残尿感，繰り返す尿路感染などの排尿に関する悩みを抱え，日常生活に大きな支障を来しています．

われわれ泌尿器科医は，こうした患者さんの困難を少しでも軽減したいと日々努めていますが，現時点では神経因性膀胱を根本から改善させる薬剤や治療法は存在しておらず，診療の難しさを痛感させられます．

薬物治療に限界がある中で，次に期待されるのは手術療法かもしれません．しかし，神経因性膀胱を完全に治癒させる手術というものもまた，現実には存在していません．とはいえ，患者さんの生活の質（QOL）を向上させることを目的とした外科的介入，すなわち尿禁制の獲得や排尿障害の解除を目的とした手術は一定の効果を示しており，QOL を大きく改善できる可能性があります．適切な適応判断と術後管理を行うことで，患者さんの満足度を高めることも十分に可能です．

神経因性膀胱は悪性腫瘍のように直接的な死因となることはまれですが，不適切な管理が続くと，慢性的な尿路感染や水腎症，さらには腎機能の不可逆的な低下を招き，最終的には患者さんの生命予後にまで影響を及ぼしかねません．そのため，早期からの的確な評価と長期的な視点に立った治療戦略が求められます．

本特集では，神経因性膀胱の診療に精通したエキスパートの先生方にご執筆をお願いし，診断から内科的・外科的治療，さらには長期管理に至るまで，幅広い観点から知見をご紹介いただきました．特に若手泌尿器科医の皆さんにとって，日々の診療に直結する知識や技術を習得する一助となることを願っております．そして何より，本特集を通じて，神経因性膀胱を抱える患者さん一人ひとりの願いに応えることができる泌尿器科医が，今後さらに増えていくことを心から願ってやみません．

佐賀大学医学部 泌尿器科学講座
東武 昇平

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2025

2026/11/11 09:17:58